【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和2年3月5日(2020.3.5)

【公開番号】特開2019-77731(P2019-77731A)
【公開日】令和1年5月23日(2019.5.23)
【年通号数】公開・登録公報2019-019
【出願番号】特願2019-27222(P2019-27222)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｋ　16/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/68　(2017.01)
Ａ６１Ｋ　39/395　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/68　(2006.01)
Ｃ４０Ｂ　30/04　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　15/13　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｋ　16/00　ＺＮＡ
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｋ　47/68
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｄ
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｎ
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｃ
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｌ
Ｇ０１Ｎ　33/68
Ｃ４０Ｂ　30/04
Ｃ１２Ｎ　15/13

【手続補正書】
【提出日】令和2年1月24日(2020.1.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
被験体における新生物、自己免疫疾患、または炎症性疾患を処置するための、あるいは、被験体における血管新生を阻害するための、活性化可能なプロドラッグ組成物であって、
ここで、該活性化可能なプロドラッグ組成物は、ＴＧＲＧＰＳＷＶ（配列番号２６７）、ＳＡＲＧＰＳＲＷ（配列番号２６８）、ＴＡＲＧＰＳＦＫ（配列番号２６９）、ＴＡＲＧＰＳＷ（配列番号２７０）、ＬＳＧＲＳＤＮＨ（配列番号２７１）、ＧＧＷＨＴＧＲＮ（配列番号２７２）、ＨＴＧＲＳＧＡＬ（配列番号２７３）、ＰＬＴＧＲＳＧＧ（配列番号２７４）、ＬＴＧＲＳＧＡ（配列番号２７５）、ＡＡＲＧＰＡＩＨ（配列番号２７６）、ＲＧＰＡＦＮＰＭ（配列番号２７７）、ＳＳＲＧＰＡＹＬ（配列番号２７８）、ＲＧＰＡＴＰＩＭ（配列番号２７９）およびＲＧＰＡ（配列番号２８０）からなる群より選択されるアミノ酸配列を含む切断可能なポリペプチドを含み、
ここで、該アミノ酸配列は、ウロキナーゼ型プラスミノーゲン活性化因子（ｕＰＡ）によって切断することができ、それによって、該活性化可能なプロドラッグ組成物を活性化

する、活性化可能なプロドラッグ組成物。
【請求項２】
被験体における新生物、自己免疫疾患、または炎症性疾患を処置するための医薬の製造における、あるいは、被験体における血管新生を阻害するための医薬の製造における、活性化可能なプロドラッグ組成物の使用であって、
ここで、該プロドラッグ組成物は、ＴＧＲＧＰＳＷＶ（配列番号２６７）、ＳＡＲＧＰＳＲＷ（配列番号２６８）、ＴＡＲＧＰＳＦＫ（配列番号２６９）、ＴＡＲＧＰＳＷ（配列番号２７０）、ＬＳＧＲＳＤＮＨ（配列番号２７１）、ＧＧＷＨＴＧＲＮ（配列番号２７２）、ＨＴＧＲＳＧＡＬ（配列番号２７３）、ＰＬＴＧＲＳＧＧ（配列番号２７４）、ＬＴＧＲＳＧＡ（配列番号２７５）、ＡＡＲＧＰＡＩＨ（配列番号２７６）、ＲＧＰＡＦＮＰＭ（配列番号２７７）、ＳＳＲＧＰＡＹＬ（配列番号２７８）、ＲＧＰＡＴＰＩＭ（配列番号２７９）およびＲＧＰＡ（配列番号２８０）からなる群より選択されるアミノ酸配列を含む切断可能なポリペプチドを含み、
ここで、該アミノ酸配列は、ウロキナーゼ型プラスミノーゲン活性化因子（ｕＰＡ）によって切断することができ、それによって、該活性化可能なプロドラッグ組成物を活性化する、使用。
【請求項３】
前記新生物が癌である、請求項２に記載の使用。
【請求項４】
前記活性化可能なプロドラッグ組成物が、該活性化可能なプロドラッグ組成物と結合体化した薬剤を含む、請求項２または３に記載の使用。
【請求項５】
前記薬剤が治療剤である、請求項４に記載の使用。
【請求項６】
前記薬剤が抗腫瘍剤である、請求項４または５に記載の使用。
【請求項７】
前記新生物が癌である、請求項１に記載の組成物。
【請求項８】
前記活性化可能なプロドラッグ組成物が、該活性化可能なプロドラッグ組成物と結合体化した薬剤を含む、請求項１または７に記載の組成物。
【請求項９】
前記薬剤が治療剤である、請求項８に記載の組成物。
【請求項１０】
前記薬剤が抗腫瘍剤である、請求項８または９に記載の組成物。